

1.A. 京都府立伏見港公園



この辺りの地は「伏見の浜」と呼ばれ、豊臣秀吉により伏見城が築かれた頃より太平洋戦争時まで淀川舟運の基地で日本最大の河川港であった。特に江戸時代は三十石舟や高瀬舟などが往来して伏見は港町として栄えた。戦争後の陸上輸送の発展とともに港としての機能は幕を閉じ、その跡を埋め立て伏見港公園となった。(府民グラフ14号より抜粋)園内には体育館、屋内外プール、テニスコート等スポーツ施設がある。

2.B. 三栖閘門



三栖閘門は伏見港と宇治川を結ぶ施設として昭和4年(1929)に造られた。2つのゲートで閘室内の水位を調整し、水位の違う淀川と宇治川を連続させて船を通す施設である。現在では交通路としての利用はされていない。構内には旧・三栖閘門操作室を復元した資料館 三栖閘門資料館がある。
開館時間 9時~16時30分
入館無料

3.C. 伏見奉行所跡



伏見奉行は江戸幕府の遠国奉行で伏見の政務や御所の警備、西国大名の監視を行った。慶応4年(1868)1月3日、鳥羽伏見の戦の際、新選組、会津藩をはじめとする幕府軍は伏見奉行所に駐屯し、ここから御香宮神社を陣とする薩長軍等の新政府軍と激戦となった。午後8時頃、薩摩藩砲兵の放った砲弾が伏見奉行所の弾薬庫に命中。砲火が浴びせられた伏見奉行所は焼け落ちた。

4.D. 乃木神社



乃木神社は明治に功績を残し、明治天皇崩御に際して殉死した乃木希典(のぎ まれすけ)大将と乃木夫人を祀った神社である。自刃した邸宅の隣地である東京都港区赤坂や、ゆかりの地に複数の乃木神社がある。伏見の乃木神社は「朕が百年の後には必ず陵を伏見に営むべし」との御遺志により御陵となった明治天皇陵がこの近くに位置し、乃木大将を尊崇する人々の尽力により、大正5年(1916)9月に創建された。乃木神社HPより

5.E. 昭憲皇太后陵



明治天皇の皇后で伏見桃山陵の明治天皇陵の東隣に位置する。昭憲皇太后は維新まもない明治時代、皇后になられた頃から社会事業振興の先頭に立ち「学習院女子高等科」や「お茶の水女子大学」の設立、日本赤十字社の発展に貢献した。また初めて洋装をした皇后として知られ、近代女子教育の振興に際し社会事業の発展、国産の奨励等に尽力した。

6.F. 明治天皇伏見桃山陵(ふしむももやまのみさざぎ)



明治天皇は第122代の天皇で攘夷を出張された孝明天皇の第2皇子として京都に生まれ、慶応3年(1867)14歳の若さで天皇位継承。同年12月、江戸幕府は大政奉還、「王政復古の大号令」を發布し、新政府が樹立された。日本の政治、経済、社会、教育、軍事を改革し、立憲国家・近代国家建立に献身された。明治45年(1912)7月29日崩御。御遺志により伏見城があった伏見桃山の地が御陵となった。

伏見桃山城

豊臣秀吉が大坂城、聚楽亭に続いて文禄元年(1592)築城。伏見城は築城から廃城までの約30年間に4つの画期(I期:指月屋敷、II期:指月城、III期:伏見城豊臣期、IV期:伏見城徳川期)があると考えられている。二期の指月伏見城は慶長伏見地震で倒壊。その後、明治天皇陵がある地を本丸に伏見城が再築された。廃城後、伏見城の遺構は御香宮神社の表門や西本願寺の唐門など多くの建物が移築されている。現在の伏見桃山城は模擬天守で昭和39年(1964)遊園地「伏見桃山城キャッスルランド」が建設された際に建設された。現在は内部非公開。
文献:京都市文化財保護課より
※台風21号の影響により現在封鎖中。



8. 桓武天皇 柏原陵



桓武天皇は天平9年(737)光仁天皇の第一王子として生まれ、延暦13年(764)平安京を開き、京の都をつくった天皇として知られる第50代天皇。延暦25年(806)70歳で崩御。伏見桃山の柏原に埋葬され、以後朝廷より厚い崇敬を受けるも中世南北期の動乱で所在不明となり、江戸後期の陵墓探索事業を経て幕末に現在の場所に定められた。
文献:HP京都に乾杯より

9. 藤森神社



約1800年前に神功皇后によって創建され皇室ともゆかりの深い古社として知られる。本殿は正徳2年(1712)、中御門天皇より賜ったもの。藤森神社は、菖蒲の節句発祥の神社としても知られ、今日では勝運と馬の神様として競馬関係者または競馬ファンの参拝者でにぎわう。幕末では新選組の近藤勇が藤森神社周辺で肩を狙撃されたと伝わる。
藤森神社HPより

10. 薩摩藩島津伏見屋敷跡



江戸時代この地は薩摩藩島津家の伏見屋敷があり、参勤交代のため江戸と薩摩を往復する際の当主の滞在地とした。幕末では坂本龍馬が寺田屋で襲撃された際にかくまわれた場所であり、近藤勇を襲撃した伊東甲子太郎の一派をかくまった場所でもある。
13代将軍徳川家定の正妻となる島津斉彬の養女篤姫(天璋院)も薩摩から江戸にむかう途中、この屋敷に入った。

11. 大黒寺(だいこくじ)



空海(弘法大師)の開基と伝える真言宗東密派の寺で、当初は長福寺と言う。豊臣秀吉が深くこの寺を信奉したのをはじめ、武家の信仰が厚かった。元和元年(1615)この地の近くにあった薩摩藩の祈禱所として、大黒天を本尊に寺名を大黒寺と改名した。境内には西郷隆盛が建てたという馬新七ら寺田屋殉難九烈士の墓がある。通称は薩摩寺と言われる。

12. 明治維新伏見の戦跡



御香宮神社内に鎮座している碑。大政奉還の後、大坂城に入った徳川慶喜が反撃の為、上洛を決意し慶応4年(1868)1月3日、幕府軍は鳥羽と伏見の二方向に分かれて京都に進軍した。御香宮神社は新政府軍薩摩藩の陣地で、対する幕府軍は伏見奉行所を陣として戊辰戦争の初戦となった。※当日は祭り開催の為、碑の見学不可。

13.G. 御香宮神社(ごこうのみやじんじゃ)

神功皇后ほかを祀り、豊臣秀吉は伏見城の守り神とした。桃山期の特色のある建築物のうち極彩色彫刻の本殿は重要文化財で同じく重要文化財である表門は伏見城の大手門を移築したもの。鳥羽伏見の戦いでは新政府軍薩摩藩の屯所となったが、本殿など被害は受けなかった。境内には明治維新伏見の戦跡がある。
※当日は祭り開催の為、碑の見学不可。



14.H. 魚三樓



明和元年(1764)、初代・三郎兵衛が高級魚専門の料理屋を構えたのが始まりである。表の格子には「鳥羽伏見の戦い」による弾痕が保存されている。

15.I. 伏見酒蔵



伏見は京都と大坂を結ぶ淀川水運で古くから栄え、豊かな自然風土と良質な地下水によって伝統的に酒造業が盛んであった。豊臣秀吉がこの地に伏見城を築き、清酒の需要が高まったことから天下の酒どころとしてその名を馳せる事となった。月桂冠や黄桜など有名な清酒の会社が古くから活動しており、酒蔵等は当時のままで今に続いている。

16.J. 寺田屋



寺田屋は安土桃山時代の慶長2年(1597)開かれた船宿で、幕末には文久2年(1862)薩摩藩士が同士討ちになった寺田屋騒動と慶応2年(1866)坂本龍馬が伏見奉行所から狙われ、命からがら脱出した寺田屋事件の舞台となり、慶応4年(1868)の「鳥羽伏見の戦い」で焼失。現在の建物はその後再建された。

見学可能
料金大人400円、中高大生300円。
京都市歴史資料館
【いしぶみデータベース】より

17.K. 伏見長州藩邸跡



元禄12(1699)年の「御香宮文書」には中書島の新天地開発を許可されたことが記されており、この時期以降に長州藩邸がこの場所に移転してきたと考えられている。幕末の元治元年(1864)7月に起きた「禁門の変」では敗走してこの長州藩邸で彦根藩や他の連合軍を迎え撃ったが砲撃の為、伏見長州藩邸は焼け落ちた。
京都市歴史資料館 【いしぶみデータベース】より



小学生以下のお子様対象のクイズです!

こどもクイズ

問題!

クイズに答えて記念品をゲット!

伏見は伏見港の他に〇〇で有名でした。次のうちどれ?

- ① 酒蔵 ② 薬業 ③ 温泉

答え

